2024 年度　第２回教育課程連携協議会議事録

（日　時：2025 年２月 26 日（水）14：00～15：15
形　式：対面会議（一部オンライン参加））

総委員：８名
（長丸昌功、宮本郁夫、本昌康、奥野善徳、木下孝治、岡内祐一郎、名古道功、荒牧裕一）
出席者：８名
（内　訳）
本人出席：４名（本　昌康、岡内祐一郎、名古道功、荒牧裕一）
代理出席：２名（長丸昌功　代理：木村　英司、木下　孝治　代理：鍛冶　静香【オンライン出席】）
欠　　席：２名（奥野善徳、宮本郁夫）
書面表決者：０名
陪　　席：宇都宮博、近藤昌朗、事務局
議　　長：名古道功（学部長）

【教育課程連携協議会次第】

１．開会（学部長　名古）
・学部長　名古より開会挨拶を行った。

２．学長挨拶（学長　岡内）
・令和７年２月 21 日に文部科学省より発出された「中教審答申」について説明がなされた。少子化の深刻化により中規模大学でも定員割れが生じている点や、文部科学省による施策、専門教育が専門職大学にとっても重要となる点から、現在本学の認知度が低く学生募集に苦戦しているが、本学の強みと企業・行政からの意見をもとに今後更なる改善を行いたいとの説明がなされた。

３．報告事項
・各事項に関する４年間の状況報告について
①学生募集（事務局長　近藤）
・４年間の入学者推移の報告がなされ、設置時当初は経営学部志望層を中心にアプローチしていたが、実際の入学者の傾向として「食」「ビジネス」を学びたいという明確な目標があるとの説明がなされた。
・令和６年度は広報本部・グループ校と連携を取りながら、以下の６つの取り組みを行ったとの説明がなされた。

（１）OC では高校生が興味を持てる実習や商品開発に関する模擬授業を行い、体験に連携性を持たせた。
（２）令和６年度はリレー講座を全３回実施し、本学認知度の向上に繋げた。
（３）全国の調理・家政・農業系高校への資料の発送。北陸３県は訪問も行った。
（４）２か月に１回、探求授業の派遣・提携（金沢高校・翠星高校・富山第一高校）を行い、高校生へ食を学ぶことの楽しさを伝えた。
（５）HP のリニューアル、SNS（Instagram、LINE）の発信強化。
（６）石川県食品協会、白山信用金庫、白山市との連携強化。
・次年度は有効だった活動を継続させ、以下の３つの取り組みにも力を入れる。
（１）長野・新潟・岐阜への訪問・進路ガイダンスへの参加強化。
（２）調理・家政・農業系高校へのアプローチ強化。
（３）専門学校・短期大学からの編入強化。

②臨地実習（学長　岡内）
・４年間での取り組み状況について資料に基づき以下の説明がなされた。
（１）本学教育方針としてプロフェッショナルとして企業の中核を担える人材の養成を掲げており、「理論」と「実践」を融合させた臨地実習は、プロに必要な思考や気づきを習得させることができる他大学と異なる教育的特徴である。
（２）新カリキュラム導入による今後の臨地実習のあり方について、これまでの取り組みを踏まえブラッシュアップを行う必要があり、各委員と意見公開を行いたい。

③就職（学部長　名古）
・１期生の就職状況について報告がなされた。本人の希望によりフードビジネス業界とは異なる企業に就職した学生もいるが、ほぼ「食」に関する企業に就職している。
・就職支援に関する取り組み内容としてキャリアアップセミナー開講について説明がなされたほか、就職支援センターの強化、学生ニーズに即した支援などの課題について、更なる検討の必要があるとの報告がなされた。

④その他（学部長　名古）
・「教育」に関しては 2024 年度第１回連携協議会にて「新カリキュラム」

について審議を行い、また、「研究」に関しては報告事項なしとの報告がなされた。

４．審議事項

・「学生募集・臨地実習・就職」に関する今後の課題について

臨地実習に関し、各委員より以下の通り意見があった。

発言者	内　　容
木村委員	外食業界での人材不足を感じており、優秀な実習生であれば毎年受け入れたいと思うが、学内ではコミュニケーションに関する教育カリキュラムはあるか。弊社でも接客の講師がおり、「レベルの高い学生」であれば経営・食の話も深まるが、今はアルバイトと変わらないレベル。「コミュニケーション」を学び、即戦力として入ることができるようになるといいのでは。学生も自信、達成感につながるので、そのような教育をしてほしいと感じる。差別化していくことが学生募集にもつながるのではないか。 （宇都宮）現行のカリキュラムにも「コミュニケーション」「ホスピタリティ」に関する科目もあるが、内容強化に特化せざるを得ない面もあり、新カリキュラム導入に当たり一部科目を統合している。 （岡内）小規模大学ではコミュニケーションの機会を意図的に作らないといけない。重要なのは聞く姿勢・傾聴。学生たちはコロナ禍で人との交流が減った世代でもあり、課外活動、プレ実習で伝える機会・訓練の場を持ちたい。わからないことを聞く、自ら動く姿勢が不足しているのは感じている。
本委員	実習生が感じたこと、聞きたかったこと、それを発信してほしい。 弊社では日報報告を行っており、実習生がそこに参加しても良いのでは。鮮度のあるおもしろい問題点に応えてあげることで、興味を持ってもらえるのでは。そのような取り組みを行っていきたい。大学でもそのようなヒアリングをすることが教育ではないか。 （岡内）本学でも日誌の定期的なチェックを行い、実習先担当者からのコメント記入も依頼しているがもっと密を上げて行う必要があると感じている。学生のコメント、意見から心情を汲み取る密度をあげ、空欄が多い場合には教員の指導も必要。学生の興味・関心がどこにあるかを拾う機会にもしていきたい。

学生募集に関しては、各委員から以下の通り意見があった。

発言者	内　　容
本委員	大学としては学生募集が重要な課題であるが、高校生と話す機会はあるのか。 （岡内）進路説明会などで直接話す機会はある。また学生がＳＮＳで本学の評判を発信している。広報でもＳＮＳを活用し、広報戦略の要としたい。学生自身が配信し、高校生との距離感を縮めたい。

就職に関して、各委員から以下の通り意見があった。

本委員	弊社レストランでも「味の素」からの指導を受けている。これからは食品協会など色々な就職先が広がっていくだろうと予想される。弊社でも商品開発を検討しており、学生にとっては様々な方面で活躍の場があると思う。会社訪問にて様々な部門・業態が見られるのは学生の特権でもある。 （岡内）学生は入学時には視野がまだ狭い。業界で何が起こっているかは学内でしっかり教えていきたい。今後は工場見学など、生産のプロセスなどを更に学ぶ必要がある。

５．閉会

・学部長　名古より、「学生募集・臨地実習・就職」の３つの柱に関する各委員の意見を踏まえ次年度の取組を進めていくとの報告がなされた。また、各委員の任期に関し、次年度再就任を依頼する場合もあるとの説明を行い、閉会となった。